



### 【取組内容】

- 「**2025年までに世界の失明を半分**」にすることを目的に、**失明や視覚障害を救う活動を実施**し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の達成に貢献。
- スマホに接続して**眼科診断をどこでも安価に誰でも簡便に使用できる**スマホアタッチメント型医療機器Smart Eye Camera (SEC) と眼科診断AIを開発し、**医療機器不足や医師不足を解決**。
- 十分な眼科診察を行い得ないような途上国を中心とする20か国において100台以上のSECが展開されており、年間15,000件以上の診断を実施。

### 【評価ポイント】

- IT技術の眼科医療への応用により、僻地や難民キャンプ等での診察を可能にし、UHC達成に貢献。

### SDGs実施指針における実施原則 (本アワード評価基準)

普遍性	IT技術を駆使して「失明」を克服しようとする取組は、他の医療問題でもロールモデルとなり得る。
包摂性	医療サービスの提供が難しい僻地や難民キャンプ等の診察を可能にし、UHCの達成に貢献。
参画型	現地の医療機関やNPO・NGO、大使館等とパートナーシップを構築し事業を展開。
統合性	失明や視覚障害の予防により、それらが招くであろう生活の質低下や医学的・経済的損失を防止。
透明性と説明責任	チームメンバー総出で定例会を行い取組の評価を行うほか、HPでの成果公開、学会発表や論文発表、公的団体による進捗確認を実施。

